

第4部

HP-GL/2エミュレーション

1 章

エミュレーションを使用するには

1.1	エミュレーションについて	60
1.1.1	エミュレーションモード	60
1.1.2	ホストインターフェイスとエミュレーション	60
1.1.3	プリント言語の切り替え	61
1.1.4	モードメニュー画面	61
1.2	工場出荷時の設定	62
1.2.1	オートレイアウト描画時の制限事項	62
1.2.2	ペーパーマージン	63
1.3	フォントについて	64
1.3.1	使用できるフォント	64
1.3.2	ユーザー定義文字(外字)	64
1.3.3	フォントキャッシュ	65
1.4	排出機能について	66
1.4.1	残ったデータを強制排出する場合	66
1.4.2	プリンター内のすべてのジョブを排出する場合	67

1.1 エミュレーションについて

DocuPrint C2220/2221で利用できるプリント言語の中のHP-GL、HP-GL/2エミュレーションについて説明します。

プリントデータはある規則(文法)に従ったデータになっています。DocuPrint C2220/2221では、この規則(文法)をプリント言語といいます。

DocuPrint C2220/2221が対応しているプリント言語は、ページ単位にイメージを作るページ記述言語と、他のプリンターでの印刷結果に近い結果を得ることができるエミュレーションに分類できます。なお、他のプリンターでの印刷結果に近い結果を得ることをエミュレートするといいます。

1.1.1 エミュレーションモード

DocuPrint C2220/2221が対応するページ記述言語以外のデータを印刷するときは、DocuPrint C2220/2221をエミュレーションモードにします。DocuPrint C2220/2221には、複数のエミュレーションモードがあります。その中のHP-GL・HP-GL/2エミュレーションモードと、エミュレートするプリンターの対応は、次のとおりです。

エミュレーションモード	エミュレートするプリンター
HP-GLエミュレーションモード(HP-GLモード)	7586B または DJ750C Plus
HP-GL/2エミュレーションモード(HP-GL/2モード)	DJ750C Plus

HP-GLモードの場合は、送られてくるデータによって、HP-GLモード、HP-GLモードとHP-RTLを切り替えます。

HP-GL/2モードの場合は、HP-GL/2およびHP-RTL固定となります。

1.1.2 ホストインターフェイスとエミュレーション

ホストインターフェイスごとに、対応するプリント言語は異なります。プリント言語に対応しているホストインターフェイスは、次のとおりです。

- パラレルポート
- NetWareポート
- lpdポート
- SMBポート
- IPPポート

1.1.3 プリント言語の切り替え

DocuPrint C2220/2221は、マルチエミュレーションに対応しています。このため、対応するプリント言語の切り替えができるようになっています。対応するプリント言語を切り替える方法は、次のとおりです。

●●● コマンド切り替え

対応するプリント言語を切り替えるコマンドを用意しています。DocuPrint C2220/2221は、コマンドを受け取ると、対応するプリント言語に切り替えます。

●●● 自動切り替え

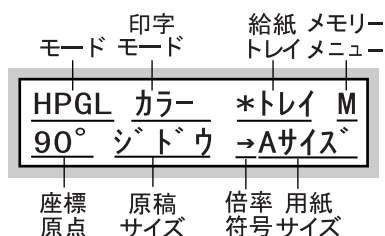
ホストインターフェイスが受信したデータを分析し、プリント言語を自動的に特定します。そして、対応するプリント言語に切り替えます。

●●● インターフェイス従属

操作パネルを使って、ホストインターフェイスごとにプリント言語を設定します。データを受信したホストインターフェイスに合わせて、対応するプリント言語を切り替えます。

1.1.4 モードメニュー画面

エミュレーションのHP-GLモード固有の項目を設定する画面です。モードメニュー画面を表示するには、**モード**を押してください。次のようになります。



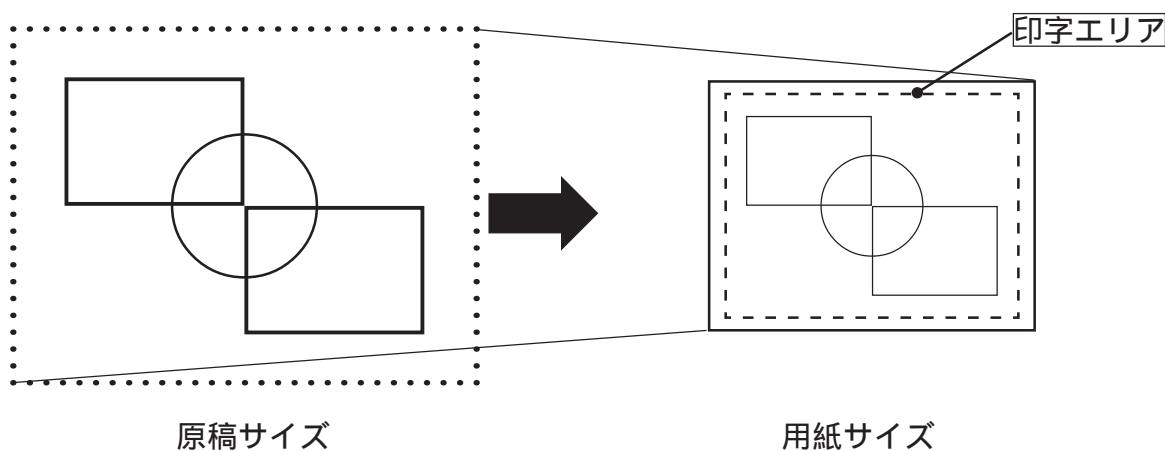
参照

モードメニュー画面については、「第2章 HP-GLモードの設定」(P.70)を参照してください。

1.2 工場出荷時の設定

工場出荷時の、HP-GL、HP-GL/2エミュレーションモードの設定では、以下のように印刷を行うことができます。以下のように工場出荷時の設定では、用紙サイズに合わせて、原稿データを縮小拡大し印刷(オートレイアウト)するように設定されています。

- 原稿：自動、座標原点：0°、スケールモード：用紙サイズ、スケール：する



補足

必要に応じて工場出荷時の設定を変更してください。設定変更については、「第2章 HP-GLモードの設定」(P.70)を参照してください。

1.2.1 オートレイアウト描画時の制限事項

- プリンターに内蔵増設ハードディスクが装着されている場合

オートレイアウト実行時、プリントデータはハードディスクに格納されます。

- プリンターに内蔵増設ハードディスクが装着されていない場合

オートレイアウト実行時、プリントデータはオートレイアウトメモリーに格納されます。オートレイアウトメモリーの初期値は100kbyteです。したがって、100kbyteを超えるサイズのプリントデータを受信した場合、プリンターはエラーとなります。この場合は、プリンターの操作パネルを使ってオートレイアウトメモリーの容量を変更してください。ただし、オートレイアウトメモリーの上限は、5120kbyteです。したがって、5120kbyteより大きいサイズのプリントデータを受信することはできません。

オートレイアウト機能を使用する場合は、プリンターにハードディスクを装着することをお勧めします。

1.2.2 ペーパーマージン

工場出荷時は用紙サイズがAサイズに設定されており、少しでも印刷データが有効座標エリアからはみ出す場合は、次の大きさのA系列サイズに(例：A4サイズの次はA3)印刷されます。ペーパーマージンを設定すると、エリア判定モードで求めた有効座標エリアから、ページマージンで設定した領域を差し引いたエリアを有効座標エリアとします。希望の用紙サイズより大きいサイズに印刷されるような場合は、本設定を行ってください。0～99mmの範囲で設定します。初期値は0mmです。

補足

設定方法については、「第2章 HP-GLモードの設定」(P.70)を参照してください。

1.3 フォントについて

ここでは、HP-GLエミュレーションモードで使用できるフォントについて説明します。

1.3.1 使用できるフォント

HP-GLエミュレーションでは、以下のフォントを使用できます。

●● アウトラインフォント

搭載されているアウトラインフォントは、次のとおりです。

和文

- 平成明朝体W3
- 平成角ゴシック体W5

欧文

- 平成明朝体(ローマン)
- 平成角ゴシック体(サンセリフ)

1.3.2 ユーザー定義文字(外字)

DocuPrint C2220/2221では、ユーザー定義文字(外字)を使用できます。ユーザー定義文字は、メモリーにしか格納できません。このため、電源を切ると、消去されてしまいます。ただし、内蔵増設ハードディスク装置を装着すると、ユーザー定義文字はハードディスクに格納されるため、電源を切っても保持されます。内蔵増設ハードディスク装置に登録できるユーザー定義文字の容量は、メモリー格納時と同じ容量です。

ユーザー定義文字を格納するメモリーの容量は、その他のユーザー定義データの容量と合わせた値を、操作パネルから設定できます。この値は、電源を切っても保持されます。

ユーザー定義文字は、ビットマップフォントとして登録します。ユーザー定義文字は、各プリント言語の間で共有できません。

1.3.3 フォントキャッシュ

高速印刷を実現するために、ある程度の大きさまでのアウトラインフォントについては、フォントキャッシュを実行します。アウトラインフォントを印字するときには、一度、ビットマップの形式に変換されます。この処理時間をできるだけ短縮するために、処理後のビットマップ形式のデータを、ある期間、メモリーに保存しておきます。これをフォントキャッシュといいます。保存されたビットマップ形式のデータは、電源を切ったり、システムリセットをしたりすると、消えます。

1.4 排出機能について

排出について説明します。 排出には、次の2種類があります。

- 残ったデータを強制排出する場合 (1.4.1参照)
- プリンター内のすべてのジョブを排出する場合 (1.4.2参照)

1.4.1 残ったデータを強制排出する場合

HP-GL・HP-GL/2エミュレーションモードでは、1ページ分のデータがすべてそろってデータは排出されません。パラレルインターフェイスの場合、データの最後がページの途中で終了してしまうと、「自動排出時間」で設定されている時間が経過するまで次のデータ待ちとなり、ディスプレイには【データマチデス】が表示されます。

強制排出は、このようなときに自動排出時間を待たず、プリンター内のデータを強制的に印刷する操作です。

操作手順は次のとおりです。

補足

ディスプレイに【データマチデス】が表示されているときに次のジョブを送信すると、正常に印刷されないことがあります。

次のジョブは、強制排出後または自動排出時間の経過後、送信してください。

参照

自動排出時間については、『DocuPrint C2220/2221取扱説明書』の「第8章 共通メニューの設定」を参照してください。

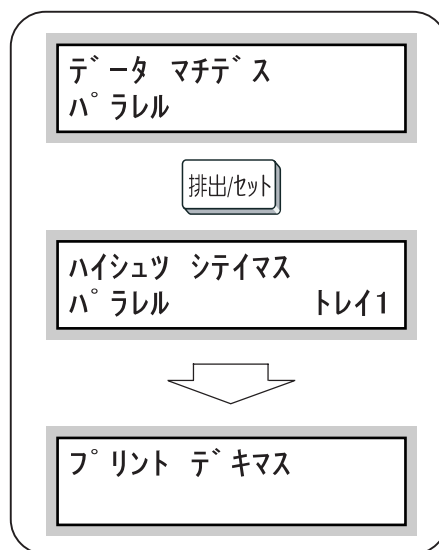
- ① 左記のディスプレイ状態で **排出/セツ** を押します。

印刷が開始されます。

印刷が終了すると、【プリントデキマス】の表示になります。

注記

共通メニューのプリントモードシテイが【ジドウ】の場合、「データマチデス」と表示されないため、強制排出できません。



1.4.2 プリンター内のすべてのジョブを排出する場合

プリンターに受信されているすべてのジョブを実行して印刷します。この操作によって、データの受信を中断し、バッファを空の状態にすることができます。次に手順を説明します。

参照

プリンター内のすべてのジョブを消去する方法もあります。消去する方法については、『DocuPrint C2220/2221取扱説明書』の「4.3.2 プリンター側で印刷を中止する」を参照してください。

- ① 左記のディスプレイ状態で **ポーズ** を押します。

ポーズ状態になります。

補足

ポーズ を押すと、プリンターは自動的にデータの受信ができない状態となります。

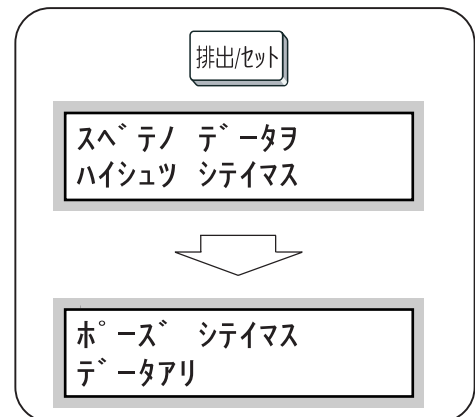
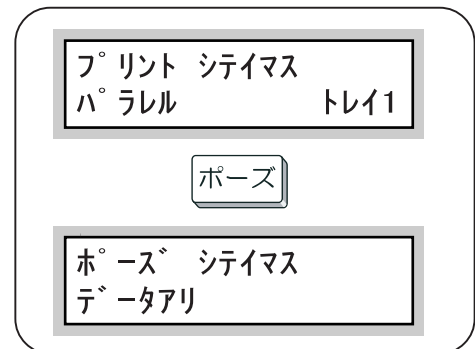
- ② **排出/セット** を押します。

印刷が開始されます。

すべてのジョブを実行して印刷すると、【ポーズ シテイマス】の表示になります。

補足

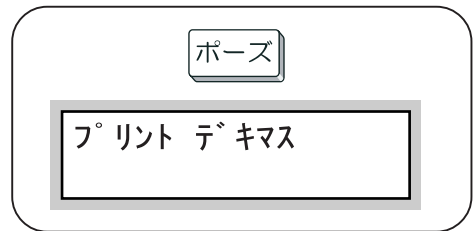
パラレルインターフェイスの場合、手順①の **ポーズ** を押すタイミングによって、データ受信がジョブの途中になることがあります。この場合、それ以降のデータは **排出/セット** を押したあと新しいジョブとして認識され、手順③のポーズ解除後、新しいジョブとして処理されます。



- ③ **ポーズ** を押します。
【プリントデキマス】の表示になります。

補足

ここでのポーズ解除後、上記の新しいジョブとして処理されるデータは、共通メニューのプリントモード指定で【ジドウ】が設定されているときは、正常に印刷されない場合があります。



HP-GLモードの設定

2章

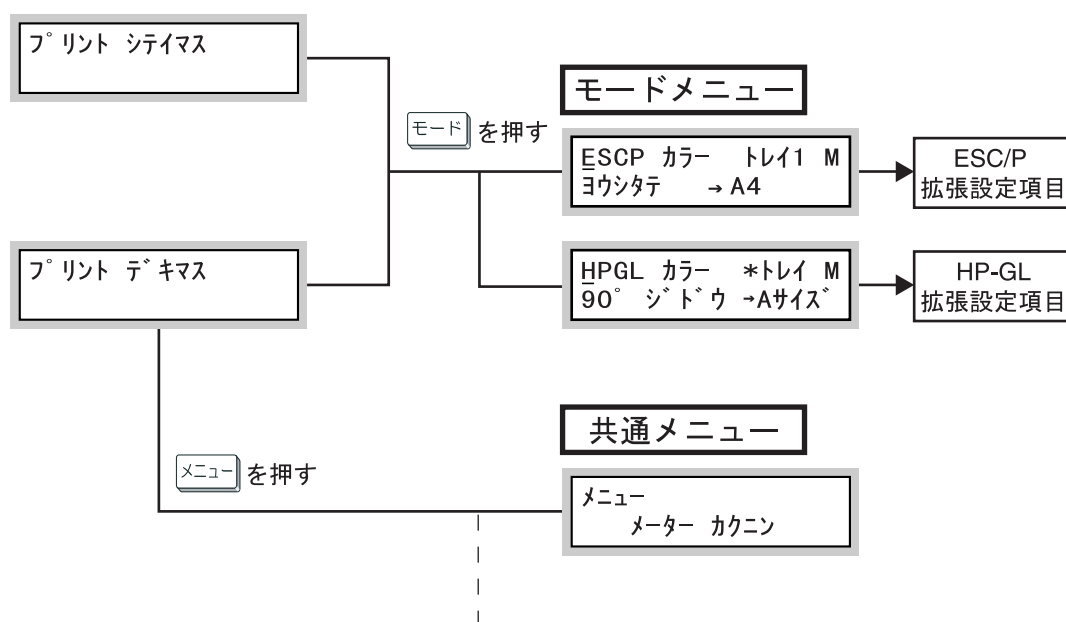
2.1	モードメニューについて	70
2.1.1	DocuPrint C2220/2221のメニュー	70
2.1.2	モードメニューについて	71
2.2	HP-GLモードメニューの設定	72
2.2.1	HP-GL設定項目一覧	72
2.2.2	HP-GLモードメニューの設定方法	80
2.3	HP-GLモードのリストについて	82
2.3.1	HP-GL/2のリスト	82
2.3.2	プリント方法	84

2.1 モードメニューについて

この節では、メニューの種類およびエミュレーションモードメニューの階層について説明します。

2.1.1 DocuPrint C2220/2221のメニュー

メニューには、エミュレーション関連を設定する「モードメニュー」とプリンターのその他の設定を行う「共通メニュー」があります。



本キットを装着すると、「共通メニュー」で以下の項目が設定できます。

- ポートの起動 (パラレル/lpd/NetWare/SMB/IPP)
HP-GL、HP-GL2、HP-RTLエミュレーションを使用するポートを起動します。
- プリントモードの指定 (パラレル/lpd/NetWare/SMB/IPP (初期値:【ジドウ】))
ポートのプリントモード指定を、HP-GLエミュレーションが使用できるように設定します。プリントモードとして【HP-GL/2】や、【HexDump】を指定できます。
- HP-GLオートレイアウトメモリー

参照

各設定については、『DocuPrint C2220/2221取扱説明書』の「第8章 共通メニューの設定」を参照してください。

2.1.2 モードメニューについて

HP-GLモードメニューは、HP-GL・HP-GL/2エミュレーションの固有な設定をするためのメニューです。

モードメニューの設定内容を印刷中に変更できます。この場合、変更された設定は、次のジョブから反映されます。

モードメニューは、次のような階層で構成されています。

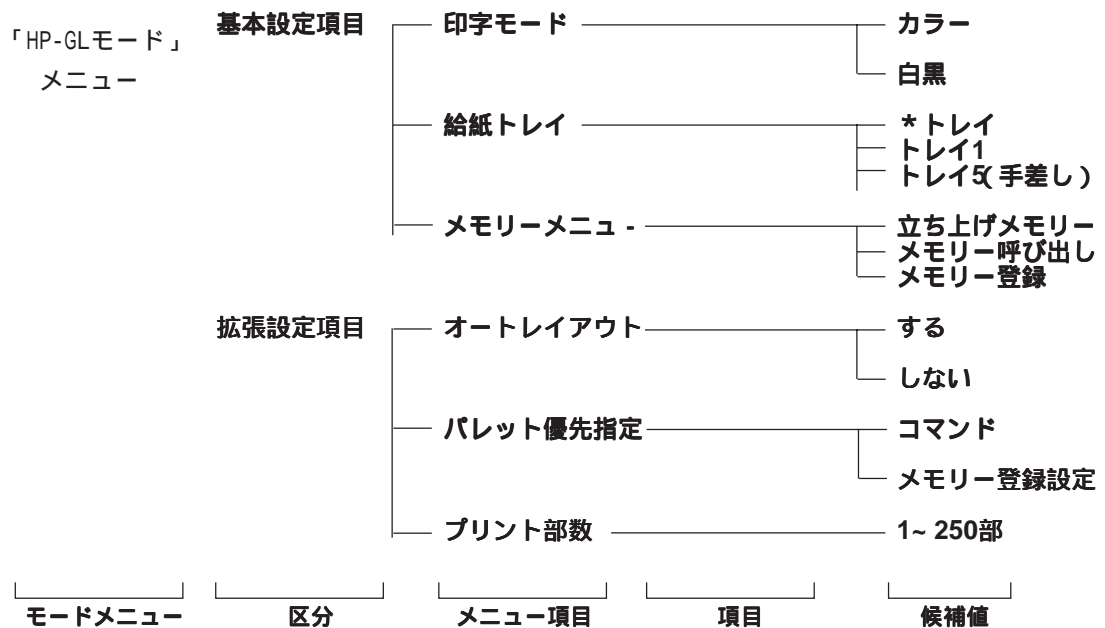
- モードメニュー>区分>メニュー項目>項目>候補値

補足

項目がないメニュー項目もあります。

項目は「項目1」「項目2」「項目3」に分けられる場合があります。

(以降、とくに断らないかぎり「項目」と呼びます。)



上記の図は、HP-GLモードメニューの階層の一部を表したものです。

●●● 基本設定項目

基本設定項目は、印字モード、給紙トレイ、原稿や用紙のサイズなど、モードメニューを選択したときに最初に表示される項目です。

●●● 拡張設定項目

拡張設定項目は、エミュレーション特有の条件をさらに細かく設定する項目です。

参照

HP-GLモードメニューで設定できる項目および操作は、「2.2 HP-GLモードメニューの設定」(P.72)を参照してください。

2.2

HP-GLモードメニューの設定

この節では、HP-GLモードメニューで設定できる項目とその操作方法について説明します。

2.2.1 HP-GL設定項目一覧

HP-GLモードメニューで設定できる項目について、基本設定項目と拡張設定項目に分けて説明します。

●●● 基本設定項目

印字モード

印字モードを設定します。

【カラー】または【シロクロ】から選択します。初期値は【カラー】です。

給紙トレイ

印刷に使用する用紙トレイを設定します。

候補値は次のとおりです。

【*トレイ】(初期値)

「用紙サイズ」で設定した用紙がセットされている用紙トレイを探し出し、そこから自動給紙します。

【トレイ1】

【トレイ2】

【トレイ3】

【トレイ4】

【トレイ5】(手差し)

手差しトレイから給紙する場合は、印刷を指示したあとに本体側の操作で印刷を開始します。設定を解除するには、「トレイ5確認表示」の設定を変更してください。

注記

- 【トレイ1】～【トレイ4】を選択した場合、その用紙トレイにセットされている用紙の大きさが用紙サイズとなるため、「用紙サイズ」の設定はできません。
- 【トレイ2】～【トレイ4】は、トレイ2～4を装着していないと表示されません。

補足

- 【*トレイ】を選択した場合、同じサイズの用紙が同じ用紙方向で複数のトレイにセットされているときは、トレイ1 (トレイX オプション) トレイX (オプション) トレイ4 (オプション) の順に給紙されます。また、同じサイズの用紙が異なる向きで複数のトレイにセットされているときは、横にセットされている用紙が優先されます。
- トレイ2、3、4はオプションです。

メモリーメニュー

NVメモリー(No.01 ~ 20)に設定内容を登録し、必要に応じて呼び出すことができます。

立ち上げメモリー

立ち上げメモリーとは、あらかじめ「メモリ登録」で登録しておいたNVメモリー(No.01 ~ 20)を電源投入時やシステムリセット時などに読み出すことです。

ここでは、読み出すNVメモリーのNo.を設定します。

初期値は【コウジョウ】で、工場出荷時の設定内容を読み出して立ち上げます。

メモリー呼び出し

あらかじめ登録されている設定内容を呼び出す機能です。

呼び出すメモリーのNo.を設定します。

初期値は【コウジョウ】で、工場出荷時の設定内容を呼び出します。

メモリー登録

メモリーには、工場出荷時の設定内容を記憶しているROMと、ユーザーが設定内容を保存できるNVメモリー(No.01 ~ No.20)があります。

メモリー登録では、NVメモリー(No.01 ~ No.20)にあらかじめ設定したモードメニューの各種設定内容をひとまとめにして登録します。

登録しておくことによって、モードメニューの設定内容を簡単に呼び出したり、電源投入時に、毎回同じ設定を繰り返す必要がなくなります。

登録した設定内容は、NVメモリーの初期化、またはメモリー削除を行うまで保持されます。

メモリー削除

NVメモリーに登録した設定内容を削除します。

ここでは、削除するメモリーのNo.を設定します。

注記

メモリーに設定内容が登録されていない場合、【No.01】~【No.20】は表示されません。

補足

登録中、クライアントからのコマンドによって設定値が異なってしまうことがあるため、登録は ポーズ を押してポーズ状態へ移行してから行うことをお勧めします。

座標原点

印刷するときの用紙方向を設定します。

候補値は次のとおりです。

【0°】(初期値)

用紙方向を横長に設定します。

【90°】

用紙方向を縦長に設定します。

原稿サイズ

クライアントで作成された原稿のサイズを設定します。

候補値は次のとおりです。

【ジドウ】(初期値)

【ヨウシ】

「用紙サイズ」で指定したサイズと同じサイズになります。

【A0】【A1】【A2】【A3】【A4】【A5】【B0】【B1】【B2】【B3】

【B4】【B5】

次ページへ

原稿サイズ

前ページより
「印字制御」のスケールモード、エリア判定モード、ペーパーマージンの設定が有効になります。

補足

- 【ジドウ】以外を選択すると、拡張設定項目の「オートレイアウト」の設定は【シナイ】になります。
- 「原稿サイズ」と「用紙サイズ」の組み合わせによって、倍率符号が【？】となることがあります。この場合、原稿は等倍で印刷されます。

倍率符号

設定される倍率によって次の記号が表示されます。設定はできません。

【 】

倍率が範囲内です。

【？】

倍率が範囲外です。

用紙サイズ

印刷する用紙のサイズを設定します。「給紙トレイ」の設定が【*トレイ】自動) または【トレイ5】手差し)の場合に設定できます。また、設定できる用紙はカット紙のみです。候補値は次のとおりです。

給紙トレイが【*トレイ】自動)のとき

【Aサイズ】(初期値) 【A3】 【A4】 【A5】 【B4】 【B5】 【ジドウ】

補足

【Aサイズ】または【ジドウ】を選択した場合は、次のように設定されます。

- 「原稿サイズ」を【ジドウ】以外に設定すると、【A3】になります。
- 「給紙トレイ」を【トレイ1】~【トレイ4】に設定すると、選択された給紙トレイの用紙サイズになります。

給紙トレイが【トレイ5】手差し)のとき

【A3】 【A4】 【A5】 【B4】 【B5】

給紙トレイが【トレイX】のとき(Xは1~4)

【A3】 【A4】 【A5】 【B4】 【B5】 【11×17】 【8.5×14】 【8.5×13】
【8.5×11】 【**】(サイズ不明)

注記

「給紙トレイ」を【トレイ1】~【トレイ4】のいずれかに設定しているときには、「用紙サイズ」の設定はできません。設定しているトレイにセットされている用紙サイズが表示されます。

補足

- 「原稿サイズ」と「用紙サイズ」の組み合わせによって、倍率符号が【？】となることがあります。この場合、原稿は等倍で印刷されます。
- 次のようなとき、候補値として【**】が表示されます。
 - ・ 「給紙トレイ」で【トレイ1】~【トレイ4】のどれかを指定し、かつそのトレイに用紙カセットが装着されていないとき
 - ・ 「給紙トレイ」で【トレイ1】~【トレイ4】のどれかを指定し、かつその用紙トレイに故障が発生したとき

●●● 拡張設定項目

オートレイアウト

オートレイアウトを使用するかしないかを設定します。
候補値は次のとおりです。

【スル】(初期値)
【シナイ】

補足

【スル】は、「原稿サイズ」で【ジドウ】が選択されている場合にだけ表示されます。

パレット優先指定

使用するパレットを設定します。
候補値は次のとおりです。

【コマンド】(初期値)
【メモリートウロク セッテイ】

プリント部数

部数の入力
印刷する部数を設定します。
設定できる範囲は、1(初期値)~250部です。

注記

クライアントからプリント部数の指定があった場合、その値が反映されて印刷されます。印刷後、プリンター用操作パネルの設定もその値に書き換えられます。ただし、NetWare、Ipdポートから指定された部数は、印刷後、プリンター用操作パネルの設定を書き換えることはありません。


部数の優先指定
印刷する部数の指定方法を設定します。

候補値は次のとおりです。
【プロトコル】(初期値)
【パネル】
【コマンド】

排出先トレイ

印刷した用紙の排出先トレイを設定します。
本機で設定できるのは、【センタートレイ】(初期値)のみです。

トレイ5確認表示

トレイ5(手差しトレイ)から給紙する印刷指示をした後、本体側の操作( を押す) によって印刷を開始します。初期値は【スル】です。

両面

両面印刷を設定します。
候補値は次のとおりです。
【シナイ】(初期値)
両面印刷を行いません。
【サユウピラキ】
左右開きになるように印刷します。
【ジョウゲピラキ】
上下開きになるように印刷します。

注記

【サユウピラキ】と【ジョウゲピラキ】は、オプションの両面ユニットが装着されている場合に設定できません。

フォント

漢字書体
2バイト系文字(漢字)の書体を【ストローク】(初期値)、【ミンチョウ】、【ゴシック】の中から設定します。なお、2バイト系半角文字もこの書体が適用されます。

英数字書体
1バイト系文字(ANK)の書体を【ストローク】(初期値)、【ローマン】、【サンセリフ】の中から設定します。

参照

フォントについては「1.3 フォントについて」(P.64)を参照してください。

位置補正 *補足(1)

ハードクリップエリアを移動させる機能です。縦横ともに - 250 ~ 250mmまで1mm単位で設定できます。

上下方向
- 250 ~ 250mmの範囲で、1mm刻みに設定できます。初期値は【0 mm】です。

左右方向
- 250 ~ 250mmの範囲で、1mm刻みに設定できます。初期値は【0 mm】です。

注記

印字エリアを超えるデータは、位置補正をしても印字されません。
また、位置補正により印字エリアを超えたデータは、印字されません。

印字制御

HPGLモード
グラフィックス言語の変更ができます。この設定は、HP-GLコマンドのIW、OW、UCコマンドに影響します。
候補値は次のとおりです。
【HP - GL】(初期値)
HP-GL、HP-GL/2、HP-RTLを使用できます。送られてくる印刷データによって自動で各言語を切り替えます。
次ページへ

印字制御

前ページより

【HP - GL / 2】

HP-GL/2、HP-RTLを使用できます。

ハードクリップ

ハードクリップエリアの大きさを設定します。

HP-GLモードでは、用紙によって作画可能な領域が決まっています。この領域はハードクリップエリアと呼ばれ、ペンが移動する最大範囲を決定します。したがって、ハードクリップエリアを超えて描画することはできません。

候補値は次のとおりです。

【ヨウシ】(初期値)

用紙と同じサイズをハードクリップエリアとします。ただし、実際に印字できる範囲は、プリンターの印字可能エリアと同じです。

【ヒョウジュン】

A4、A3、レター、レジャーのハードクリップエリアは、ヒューレット・パカード株式会社のHP7550Aと同じです。

他の用紙サイズのハードクリップエリアは、本プリンターの印字可能エリアと同じです。

排出コマンド

描画の終了を示すコマンド(SP、SP0、NR、FR、PG、AF、AH)を設定します。ここで指定したコマンドを受信すると、描画を終了し、用紙が排出されます。工場出荷時は、SP0以外のコマンドは【ムコウ】に設定されています。

補足

複数のコマンドが指定された場合は、どれか1つのコマンドを受信した時点で、描画を終了して用紙が排出されます。

スケール

原稿サイズが用紙サイズに合うように、原稿サイズを拡大/縮小(スケーリング)するかを設定します。

【スル】(初期値)

スケーリングします。

【シナイ】

スケーリングしません。プリントデータは、等倍(100%)で印刷されます。この場合、用紙サイズ内にプリントデータが入りきらないことがあります。

スケールモード

オートスケール実行時の原稿サイズを、A系列の用紙サイズ(A0、A1、A2、A3、A4、A5の6種類)とするか、エリア判定モードで選択された方法によって求められた有効座標エリアとするかを設定します。候補値は次のとおりです。

【ヨウシサイズ】(初期値)

原稿サイズは、A系列の用紙サイズ(A0、A1、A2、A3、A4、A5の6種類)の中から自動的に選択されます。

【ザヒョウエリア】

原稿サイズは、エリア判定モードで選択された方法によって求められた有効座標エリアから、ページマージンを差し引いたエリアとします。

補足

【ザヒョウエリア】は、「オートレイアウト」が【スル】の場合だけ設定できます。【シナイ】の場合は、【ヨウシサイズ】になります。

次ページへ

印字制御

前ページより

エリア判定モード

オートスケール実行時、有効座標エリアを求める方法を設定します。

候補値は次のとおりです。

【ジドウ】(初期値)

有効座標エリア判定方法を、PS、IW、IP、Adaptedの中から自動的に選択します。このときの優先順位は、PS > IW > IP > Adaptedとなります。

【PS】

データ中の最初のPSコマンドで指定された領域を、有効座標エリアとします。データ中にPSコマンドがない場合は、Adaptedで有効座標エリアを決定します。

【IW】

データ中の最後のIWコマンドで指定された領域を、有効座標エリアとします。データ中にIWコマンドがない場合は、Adaptedで有効座標エリアを決定します。

【IP】

データ中のすべてのIPコマンドで指定された領域を含むエリアを、有効座標エリアとします。データ中にIPコマンドがない場合は、Adaptedで有効座標エリアを決定します。

【Adapted】

以下の条件から有効座標エリアを決定します。

- 描画を行うコマンドがプロットする最大と最小の位置座標
- そのページ内に指定された最大の文字サイズ
- 最大の線幅

ペーパーマージン *補足(1)

オートスケール実行時のペーパーマージンを設定します。

0~99mmの範囲で、1mm刻みに設定できます。初期値は【0 mm】です。

イメージエンハンス

イメージエンハンスを行うか行わないかを設定します。

イメージエンハンスとは、画像の境界を滑らかにしてギザギザを減らし、疑似的に解像度を高める機能です。候補値は次のとおりです。

【スル】(初期値)

【シナイ】

注記

スケールモード、エリア判定モード、ペーパーマージンの設定は、「原稿サイズ」が【ジドウ】の場合に有効となります。

ペン属性

16本のペン(【No. 00】~【No. 15】)の属性を設定します。

作図する線の太さや色を設定できます。

幅 *補足(1)

ペンの幅(太さ)を設定します。ペンの幅は、0.0~25.5mmの範囲で、0.1mm刻みに設定できます。初期値は【0.3mm】です。

補足

- 「原稿サイズ」と「用紙サイズ」の組み合わせによって縮小された場合、ペンの幅も最小0.1mmまで縮小します。
- 線の幅は線の中心から太くなります。
- 太さが0.0mmの場合は、何も描画されません。

次ページへ

ペン属性

前ページより

先端

ペンの先端を設定します。

【セツダン】(初期値)

 • •: 座標指定位置

【マルメ】

 • •: 座標指定位置

【クケイ】

 • •: 座標指定位置

連結

ペンの線を接続した場合の処理を設定します。

【ナシ】(初期値)

【セツダン】



【マルメ】

【コウサ】



補足

- 【ナシ】は、処理時間がもっとも短く、確認用に適しています。
- シンボルモードコマンドによってシンボルが設定されている場合、連結処理は行われません。シンボルモードコマンドとは、シンボルを指定するHP-GLコマンドです。





カラー *補足(1)

ペンの濃度を設定します。0～255%の範囲で5%単位で設定します。No.00～No.15それぞれの初期値は、0、1、2、3、4、5、6、7、8、12、19、27、35、68、100、110となります。数値が小さくなるほど濃度が薄くなります。

補足

ペン属性と文字書体の関係は次のとおりです。

ペン属性 \ 書体	ストローク	明朝、ゴシック、 ローマン、サンセリフ
ペン幅	有効	無効
先端処理	有効	無効
連結処理		無効
カラー		有効

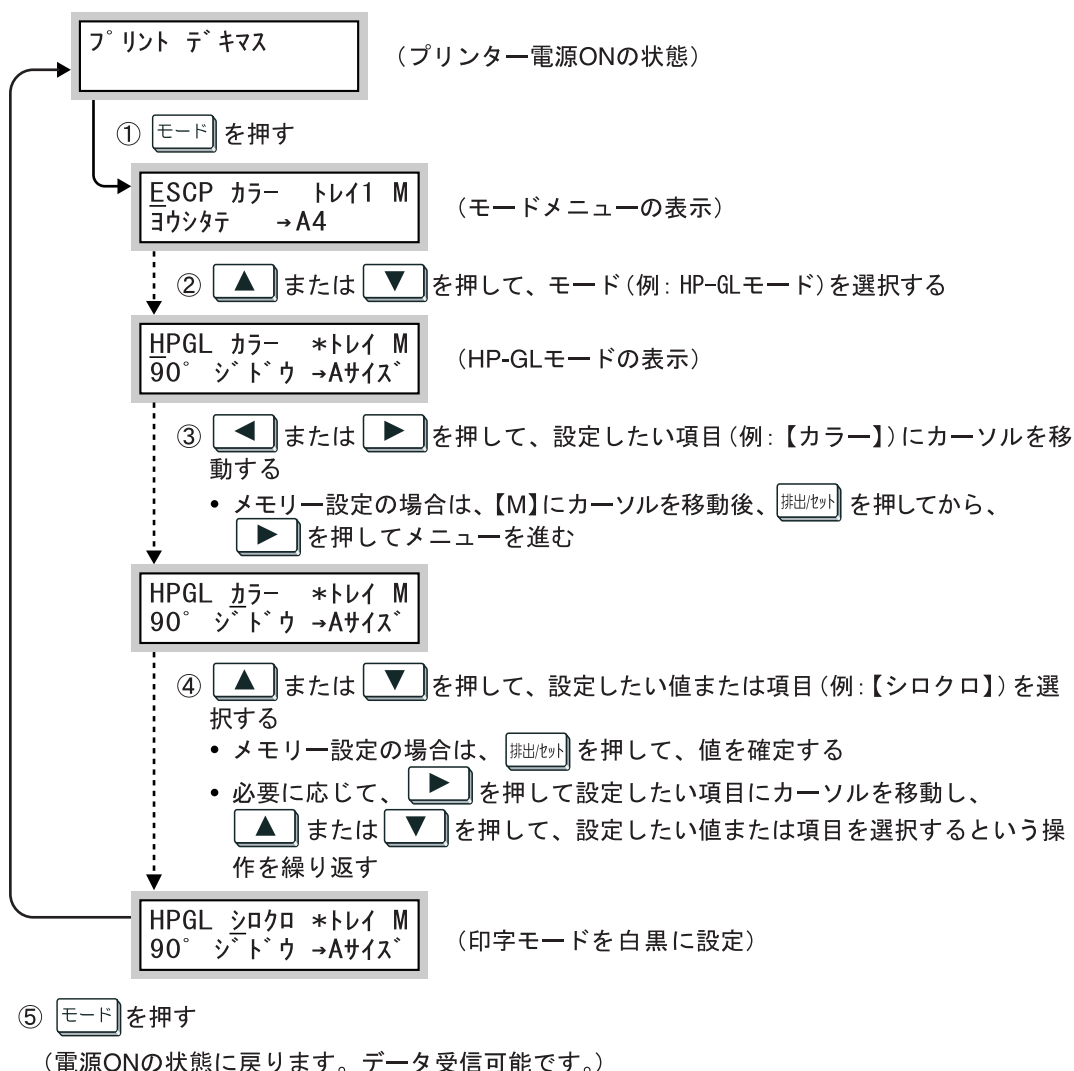
*補足(1)  または  で候補値を変更するときに、ボタンを押し続けると、連続的に表示を変えることができます。また、 と  を同時に押すと、初期値が表示されます。

2.2.2 HP-GLモードメニューの設定方法

モードメニューの設定方法は、基本設定項目と拡張設定項目に分けて説明します。

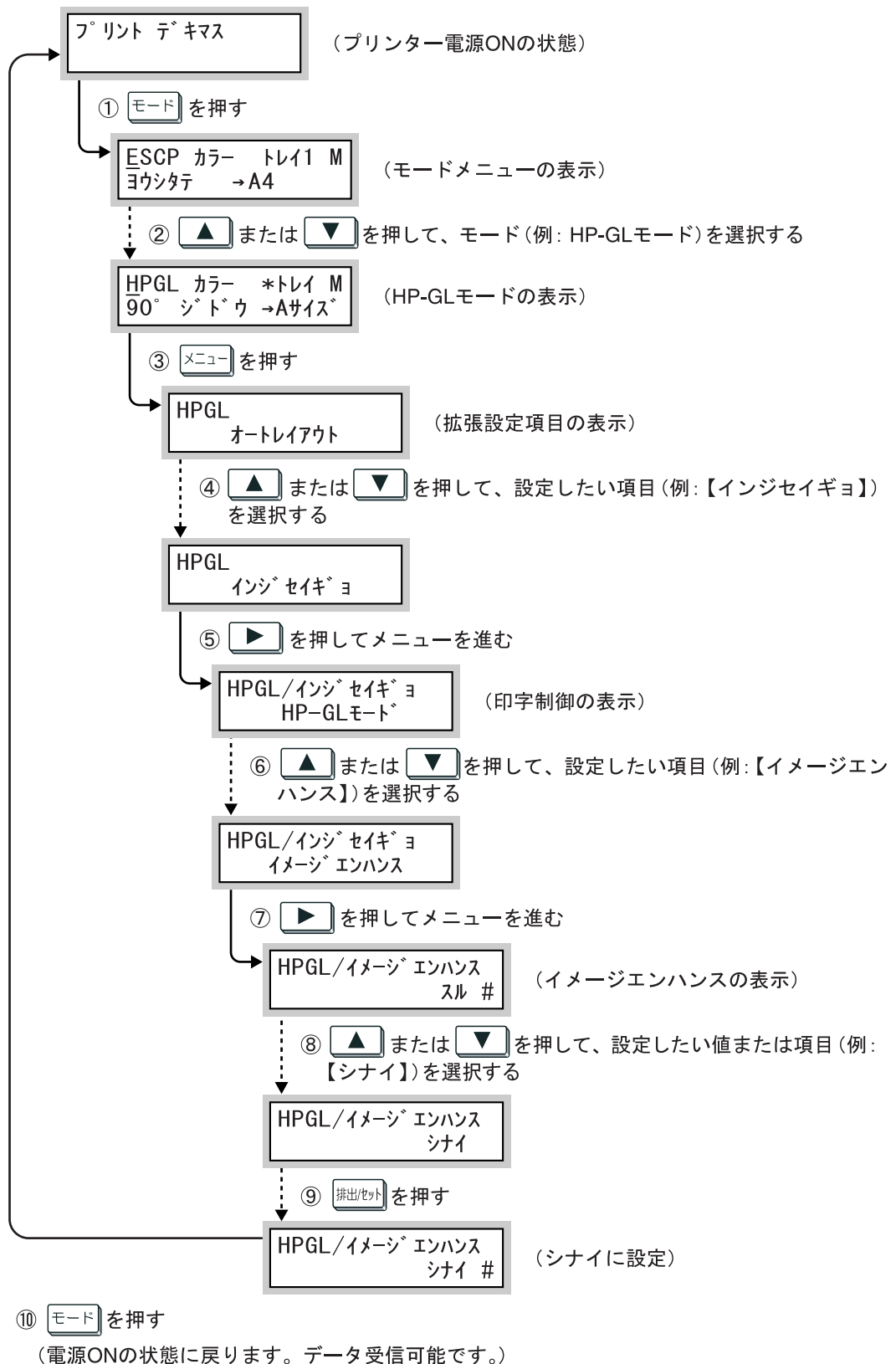
●●● 基本設定項目

モードメニュー(基本設定項目)の設定方法について、HP-GLモードの印字モードを【シロクロ】に設定する場合を例にとって説明します。



●●● 拡張設定項目

モードメニュー(拡張設定項目)の設定方法について、HP-GLモードのイメージエンハンスを【シナイ】に設定する場合を例にとって説明します。



2.3 HP-GLモードのリストについて

HP-GLモードでの各レポート/リストについて説明します。

補足

レポート/リストの印刷結果は、DocuPrint C2220を例に記載しています。

2.3.1 HP-GL/2のリスト

HP-GL・HP-GL/2モードでの設定リストは、以下の物が用意されています。

- HP-GL/2設定リスト

HP-GLモードでの設定値を確認できます。

DocuPrint C2220		HP-GL/2® 設定リスト				日時 : 2000/11/09 13:18	
書式設定		ペン属性					
原簿サイズ	自動	No.	幅 (mm)	先端形状	連結形状	カラー	
用紙サイズ	A系列サイズ	0	0.3	切断	なし	0	
用紙トレイ	自動	1	0.3	切断	なし	1	
オートレイアウト	する	2	0.3	切断	なし	2	
座標回転	0°	3	0.3	切断	なし	3	
パレットの優先指定	コマンド	4	0.3	切断	なし	4	
位置補正	しない	5	0.3	切断	なし	5	
上下方向	しない	6	0.3	切断	なし	6	
左右方向	しない	7	0.3	切断	なし	7	
カラーモード	カラー	8	0.3	切断	なし	8	
		9	0.3	切断	なし	12	
フォント		10	0.3	切断	なし	19	
漢字書体	ストローク	11	0.3	切断	なし	27	
英数字書体	ストローク	12	0.3	切断	なし	35	
		13	0.3	切断	なし	68	
オプション設定		14	0.3	切断	なし	100	
排出先	センタートレイ	15	0.3	切断	なし	110	
両面	しない						
印字制御		メモリー登録一覧					
トレイ5(手差し)の給紙確認待ち	しない	工場出荷時の設定					
HP-GLモード	HP-GL	No. 1				未登録	
イメージエンハンス	する	No. 2				未登録	
排出コマンド		No. 3				未登録	
SP	無効	No. 4				未登録	
SP0	有効	No. 5				未登録	
NR	無効	No. 6				未登録	
FR	無効	No. 7				未登録	
PG	無効	No. 8				未登録	
AF	無効	No. 9				未登録	
AB	無効	No. 10				未登録	
プリント部数の優先指定	プロトコル	No. 11				未登録	
プリント部数	1部	No. 12				未登録	
スケール	する	No. 13				未登録	
スケールモード	用紙サイズ	No. 14				未登録	
エリア判定モード	自動	No. 15				未登録	
ペーパーマージン	0mm	No. 16				未登録	
ハードクリップ	用紙	No. 17				未登録	
		No. 18				未登録	
		No. 19				未登録	
		No. 20				未登録	

- HP-GL/2論理プリンター・メモリー登録リスト
NVメモリーに登録されている設定値を確認できます。

DocuPrint C220

HP-GL/2® 論理プリンター・メモリー登録リスト

日時： 2000/11/09 13:18
ページ： 1

登録番号	No. 1	No. 2	No. 3	No. 4	No. 5																
書式設定																					
縦書き	自動	自動	自動	自動	自動																
用紙サイズ	指定なし	指定なし	指定なし	指定なし	指定なし																
用紙トレイ	自動	自動	自動	自動	自動																
オートトレイアウト	する	する	する	する	する																
後部トレイの優先指定	0	0	0	0	0																
バリエーションの優先指定	コマンド	コマンド	コマンド	コマンド	コマンド																
信濃補正 (上下方向)	しない	しない	しない	しない	しない																
信濃補正 (左右方向)	しない	しない	しない	しない	しない																
カラーモード	カラー	カラー	カラー	カラー	カラー																
フォント																					
漢字書体	ストローク	ストローク	ストローク	ストローク	ストローク																
英数字書体	ストローク	ストローク	ストローク	ストローク	ストローク																
画質																					
解像度	300	300	300	300	300																
挿出先	しない	しない	しない	しない	しない																
センタートレイ	しない	しない	しない	しない	しない																
印字制御																					
トレイ名 (手差し) の給紙確認待ち	しない	しない	しない	しない	しない																
印字モード	標準	標準	標準	標準	標準																
イメージエンハンス	する	する	する	する	する																
抽出コマンド	SR	SR	SR	SR	SR																
プリンタ数の優先指定	プロトコル	プロトコル	プロトコル	プロトコル	プロトコル																
フロント部数	1部	1部	1部	1部	1部																
バック部数	1部	1部	1部	1部	1部																
スケールモード	用紙サイズ	用紙サイズ	用紙サイズ	用紙サイズ	用紙サイズ																
スリップ指定モード	自動	自動	自動	自動	自動																
ペーパーマージン	0mm	0mm	0mm	0mm	0mm																
ハードタリフ	用紙	用紙	用紙	用紙	用紙																
ベン特性																					
No.	幅 (mm)	先端形状	連結形状	カラー	幅 (mm)	先端形状	連結形状	カラー	幅 (mm)	先端形状	連結形状	カラー	幅 (mm)	先端形状	連結形状	カラー	幅 (mm)	先端形状	連結形状	カラー	
No. 0	0	0.3	切断	なし	0	0.3	切断	なし	0	0.3	切断	なし	0	0.3	切断	なし	0	0.3	切断	なし	0
No. 1	1	0.3	切断	なし	1	0.3	切断	なし	1	0.3	切断	なし	1	0.3	切断	なし	1	0.3	切断	なし	1
No. 2	2	0.3	切断	なし	2	0.3	切断	なし	2	0.3	切断	なし	2	0.3	切断	なし	2	0.3	切断	なし	2
No. 3	3	0.3	切断	なし	3	0.3	切断	なし	3	0.3	切断	なし	3	0.3	切断	なし	3	0.3	切断	なし	3
No. 4	4	0.3	切断	なし	4	0.3	切断	なし	4	0.3	切断	なし	4	0.3	切断	なし	4	0.3	切断	なし	4
No. 5	5	0.3	切断	なし	5	0.3	切断	なし	5	0.3	切断	なし	5	0.3	切断	なし	5	0.3	切断	なし	5
No. 6	6	0.3	切断	なし	6	0.3	切断	なし	6	0.3	切断	なし	6	0.3	切断	なし	6	0.3	切断	なし	6
No. 7	7	0.3	切断	なし	7	0.3	切断	なし	7	0.3	切断	なし	7	0.3	切断	なし	7	0.3	切断	なし	7
No. 8	8	0.3	切断	なし	8	0.3	切断	なし	8	0.3	切断	なし	8	0.3	切断	なし	8	0.3	切断	なし	8
No. 9	9	0.3	切断	なし	9	0.3	切断	なし	9	0.3	切断	なし	9	0.3	切断	なし	9	0.3	切断	なし	9
No. 10	10	0.3	切断	なし	10	0.3	切断	なし	10	0.3	切断	なし	10	0.3	切断	なし	10	0.3	切断	なし	10
No. 11	11	0.3	切断	なし	11	0.3	切断	なし	11	0.3	切断	なし	11	0.3	切断	なし	11	0.3	切断	なし	11
No. 12	12	0.3	切断	なし	12	0.3	切断	なし	12	0.3	切断	なし	12	0.3	切断	なし	12	0.3	切断	なし	12
No. 13	13	0.3	切断	なし	13	0.3	切断	なし	13	0.3	切断	なし	13	0.3	切断	なし	13	0.3	切断	なし	13
No. 14	14	0.3	切断	なし	14	0.3	切断	なし	14	0.3	切断	なし	14	0.3	切断	なし	14	0.3	切断	なし	14
No. 15	15	0.3	切断	なし	15	0.3	切断	なし	15	0.3	切断	なし	15	0.3	切断	なし	15	0.3	切断	なし	15

- HP-GL/2パレットリスト
カラー・パレットの設定値を確認できます。

DocuPrint C220

HP-GL/2® パレットリスト

日時： 2000/11/09 13:19

基本色

255,255,255 0,0,0 255,0,0 0,255,0 255,255,0 0,0,255 0,0,0 255,0,255

グレー階調

255,255,255 233,233,233 204,204,204 178,178,178 153,153,153 127,127,127 102,102,102 77,77,77 52,52,52 26,26,26

操作パネルの指示番号

2 255,0,0 (RGB値 6~255)

標準の設定

ベンNo. 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15
指示番号 0 1 2 3 4 5 6 7 8 12 19 27 35 68 100 110

補足

その他のリスト/レポートについては、『DocuPrint C2220/2221取扱説明書』の「6.3 レポート/リストを印刷する」を参照してください。

2.3.2 プリント方法

リスト/レポートの印刷方法は、『DocuPrint C2220/2221取扱説明書』の「6.3 レポート/リストを印刷する」を参照してください。

3章

HP-GLモード関連資料

3.1	ハードクリップエリア	86
3.2	印字可能エリア	87
3.3	オートレイアウト	89
3.3.1	オートレイアウトとは	89
3.3.2	オートレイアウト機能を有効にするためには	89
3.3.3	設定項目の詳細	89
3.3.4	原稿サイズの決定方法	92
3.3.5	用紙サイズの決定方法	93
3.3.6	倍率の決定方法	95
3.3.7	オートレイアウト描画時の制限事項	96
3.3.8	各機能組み合わせ例	97

3.1 ハードクリップエリア

HP-GLモードでは、印字可能エリアとは別に、用紙によって作画可能な領域が決まっています。この領域はハードクリップエリアと呼ばれ、ペンが移動する最大範囲を決定します。したがって、ハードクリップエリアを超えて作画することはできません。本機では、次の中からハードクリップエリアを選択します。

- 標準

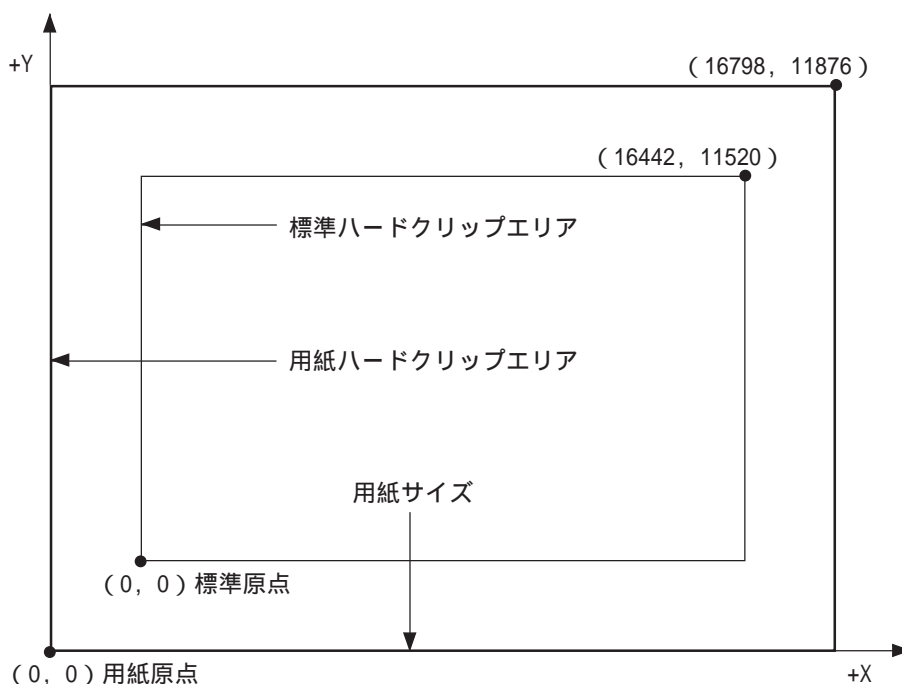
本機の印字可能エリアをハードクリップとして定義します。

- 用紙

用紙と同じサイズをハードクリップエリアとして定義します。しかし、実際にプリントできる領域は印字可能エリア内のみとなります。

ハードクリップエリアの設定は、HP-GLEミュレーションモード設定 またはハードクリップの指定コマンド&Iで行うことができます。

下図の座標値は、A3サイズで原点が左下(HP-GL/2でオートレイアウト時)に設定されている場合です。



3.2 印字可能エリア

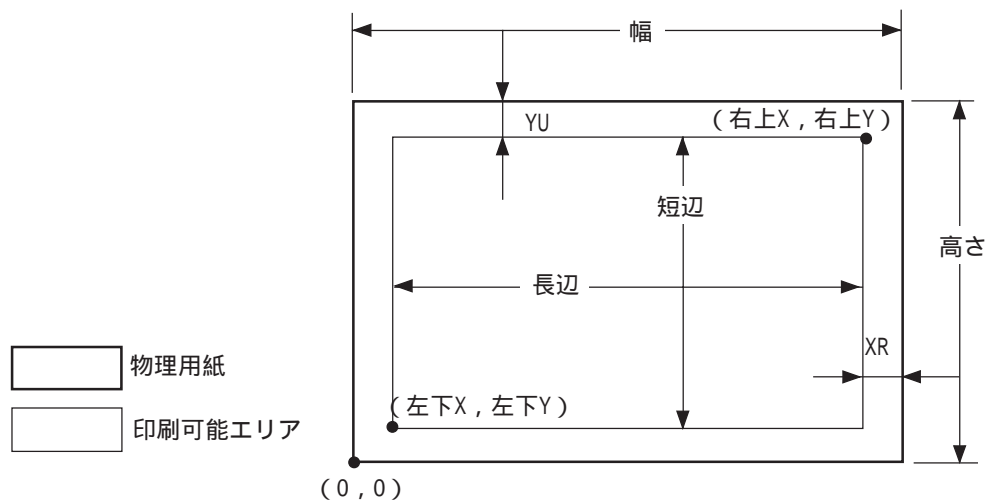
HP-GLモードで印刷できるエリアは、次のとおりです。

●●● 用紙サイズと印刷可能エリア

用紙サイズ	用紙長 (1/7200 インチ)		座標値 (1/7200 インチ)							
	X方向	Y方向	マージン		印刷可能エリア		右上端		マージン	
	幅	高さ	左下X	左下Y	長辺	短辺	右上X	右上Y	XR	YU
A3	119052	84168	1260	1260	116532	81648	117792	82908	1260	1260
A4	84168	59508	1260	1260	81648	56988	82908	58248	1260	1260
A5	59508	41940	1260	1260	56988	39420	58248	40680	1260	1260
B4	103176	72828	1260	1260	100656	70308	101916	71568	1260	1260
B5	72828	51588	1260	1260	70308	49068	71568	50328	1260	1260

補足

HP-GLエミュレーションでサポートしている用紙サイズは、A3、A5、A4、B4、B5の5種類です。

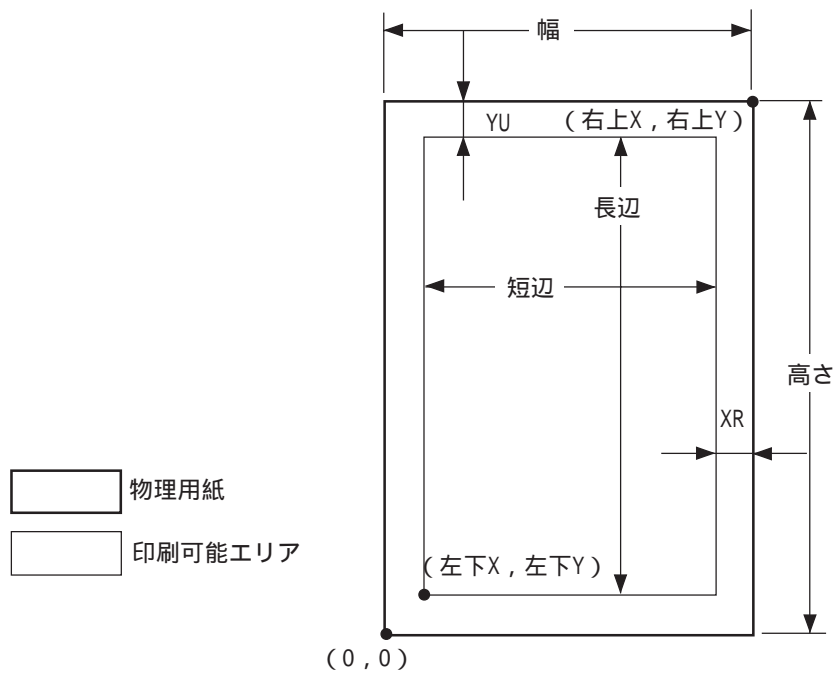


3.2 印字可能エリア

用紙サイズ	用紙長 (1/7200 インチ)		座標値 (1/7200 インチ)							
	X方向	Y方向	マージン		印刷可能エリア		右上端		マージン	
	幅	高さ	左下X	左下Y	長辺	短辺	右上X	右上Y	XR	YU
A3	84168	119052	1260	1260	81648	116532	82908	117792	1260	1260
A4	59508	84168	1260	1260	56988	81648	58248	82908	1260	1260
A5	41940	59508	1260	1260	39420	56988	40680	58248	1260	1260
B4	72828	103176	1260	1260	70308	100656	71568	101916	1260	1260
B5	51588	72828	1260	1260	49068	70308	50328	71568	1260	1260

補足

HP-GLエミュレーションでサポートしている用紙サイズは、A3、A5、A4、B4、B5の5種類です。



3.3 オートレイアウト

ここでは、オートレイアウトについて説明します。

3.3.1 オートレイアウトとは

オートレイアウトとは、ホスト装置から入力されたHP-GLデータをもとに原稿サイズを判断し、描画する用紙サイズに合わせて拡大・縮小し、描画データが用紙の中央にくるようにレイアウトする機能のことです。オートスケール・オートレイアウト機能を使用することによって、原稿サイズ、原点位置などを意識することなく、HP-GLモードで印刷できます。

オートレイアウトの指定はすべてプリンターの操作パネルで行います。拡張コマンドで設定することはできません。

3.3.2 オートレイアウト機能を有効にするためには

オートレイアウト機能を有効にするためには、プリンターの操作パネルを使って次の項目の設定をします。

- 原稿サイズを【ジドウ】に設定します。初期値は、【ジドウ】です。
- 原点位置を設定するために、オートレイアウトを【スル】に設定します。初期値は、【スル】です。
- スケールを【スル】に設定します。初期値は、【スル】です。
- エリア判定モードで、有効座標エリアを求める方法を選びます。初期値は、【ジドウ】です。
- ペーパーマージンでペーパーマージンを設定します。初期値は、【0mm】です。
- スケールモードを設定します。初期値は、【ヨウシサイズ】です。

3.3.3 設定項目の詳細

各項目の詳細は、次のとおりです。

●●● 原稿サイズ

モードボタンを押し、原稿サイズで【ジドウ】を選択すると、オートレイアウトの設定を【スル】にできるようになります。

●●● オートレイアウト

モードボタンを押し、メニューボタンを押し、オートレイアウトの設定を【スル】に設定します。【スル】に設定すると、スケール、エリア判定モード、ペーパーマージン、スケールモードの設定が有効になります。

●● スケール

原稿サイズが用紙サイズに合うように、原稿サイズを拡大・縮小(スケーリング)するかどうかを設定します。

●● エリア判定モード

HP-GLデータをもとに有効座標エリアを求める方法には、次のものがあります。

【ジドウ】

有効座標エリア判定方法を、PS、IW、IP、Adaptedの中から自動的に選択します。このときの優先順位は、PS>IW>IP>Adaptedとなります。

【IW】

データ中の最後のIWコマンドで指定された領域を、有効座標エリアとします。データ中にIWコマンドがない場合は、Adaptedで有効座標エリアを決定します。

【IP】

データ中のすべてのIPコマンドで指定された領域を含むエリアを、有効座標エリアとします。データ中にIPコマンドがない場合は、Adaptedで有効座標エリアを決定します。

【Adapted】

以下の条件から有効座標エリアを決定します。

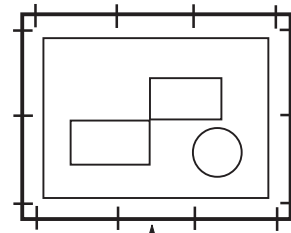
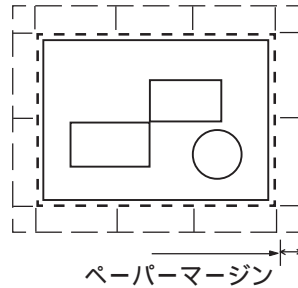
- 描画するコマンドがプロットする最大と最小の位置座標
- そのページ内に指定された最大の文字サイズ
- 最大の線幅

【PS】

データ中の最初にPSコマンドで指定された領域を含むエリアを、有効座標エリアとします。データ中にPSコマンドがない場合は、Adaptedで有効座標エリアを決定します。

●●● ペーパーマージン

0～99mmの範囲で設定します。初期値は0mmです。エリア判定モードで求めた有効座標エリアから、ページマージンで設定した領域を差し引いたエリアを有効座標エリアとします。



[] エリア判定モードで求めたエリア

[] エリア判定モードで求めたエリアからペーパーマージンを差し引いたエリア

●●● スケールモード

求めた有効座標エリアから、原稿サイズを決定するモードを選択します。また、有効座標エリアから横置きまたは縦置きの判断もします。

【ザヒョウエリア】の場合

エリア判定モードで求めたエリアからページマージンで設定した領域を差し引いたエリアを原稿サイズとします。

【ヨウシサイズ】の場合

求めた有効座標エリアと原点位置の設定から、原稿サイズを設定します。原稿サイズは、A系列の用紙サイズ(A0、A1、A2、A3、A4、A5の6種類)から選択されます。

3.3.4 原稿サイズの決定方法

原稿サイズは、スケールモード、ペーパーマージン、エリア判定モードで求めた有効座標エリアをもとに、各用紙サイズの用紙ハードクリップエリアと比較し、決定されます。

●● スケールモードがヨウシサイズの場合

- ① エリア判定モードに従い、入力されたHP-GLデータから有効となる座標エリアを求めます。
- ② ①で求めた有効となる座標エリアに対し、ページ内で指定された文字の大きさまたはデフォルトの文字の大きさ、または指定されたペン幅の1/2のいずれか値の大きいほうをマージンとして加えます。
- ③ ②で求めた有効な座標エリアから、ペーパーマージンで設定された値を引きます。
- ④ ③で求めた有効な座標エリアを含む最小のサイズを原稿サイズとします。

●● スケールモードがザヒョウエリアの場合

- ① エリア判定モードに従い、入力されたHP-GLデータから有効となる座標エリアを求めます。
- ② ①で求めた有効となる座標エリアに対し、ページ内で指定された文字の大きさまたはデフォルトの文字の大きさ、または指定されたペン幅の1/2のいずれか値の大きいほうをマージンとして加えます。
- ③ ②で求めた有効な座標エリアから、ペーパーマージンで設定された値をひきます。
- ④ ③までの処理で求めた座標エリアを原稿サイズとします。

●●● 例:

スケールモード=用紙サイズ、原点位置=オート、ペーパーマージン10mm、エリア判定モード=IPの場合に下記データが入力された場合

ペン幅設定はすべて0.1mm

下記データでは文字サイズ指定コマンドは存在せず、IP, IWで指定しているエリアはA3物理サイズ

IN;

IP-8399, -5938, 8399, 5938;

IW-8399, -5938, 8399, 5938;

PU;

SP1;

:

:

SP0;

- ① エリア判定モードがIPのためIPコマンドで指定されたエリア
-8399, -5938, 8399, 5938を有効座標エリアとします。
- ② 上記例では文字サイズ指定コマンドなし、ペン幅はすべて0.1mmのためA3サイズのデフォルト文字サイズの高さ/2(75プロッタユニット)のサイズを①で求めた有効座標エリアに加えます。
②で求めた有効座標エリア -8474, -6013, 8474, 6013
- ③ ペーパーマージンで設定されている値(10mm=400プロッタユニット)を②で求めた有効座標エリアから差し引きます。
③で求めた有効座標エリア -8074, -5613, 8074, 5613
- ④ ③で求めた有効座標エリアはA4サイズを超えA3サイズのため、原稿サイズはA3と判断されます。

また、ペーパーマージンの設定が0mmだった場合の有効座標エリアは-8474, -6013, 8474, 6013なので、A3サイズを超えA2サイズ以下のため、原稿サイズはA2と判断されます。

3.3.5 用紙サイズの決定方法

操作パネルの設定が次の場合、用紙サイズの決定方法は以下のようになります。

- 原稿サイズ : ジドウ
- 給紙トレイ : *トレイ(自動)

用紙サイズの決定方法は、操作パネルの用紙サイズの設定、およびスケールモードの設定によって異なります。

●●● 用紙サイズの設定が、【Aサイズ】の場合

A3,A4,A5の3種類の中から実際にトレイにセットされている用紙サイズが、用紙サイズの候補となります。

A系列(A3,A4,A5)の用紙がトレイにセットされていない場合は、A3,A4,A5すべてのサイズを候補とし、操作パネルには、A系列の用紙のセットを促すエラーメッセージが表示されます。

●●● 用紙サイズの設定が、【ジドウ】の場合

A3,B4,A4,B5,A5の5種類の中から実際にトレイにセットされている用紙サイズが、用紙サイズの候補となります。

A3,B4,A4,B5,A5の用紙がトレイにセットされていない場合は、このすべてのサイズを候補とし、操作パネルには、用紙のセットを促すエラーメッセージが表示されます。

●●● スケールモードの設定が、【ヨウシサイズ】の場合

原稿サイズと同じ用紙サイズがある場合は、原稿サイズと同じサイズの用紙を選択します。

原稿サイズが、候補となったどの用紙サイズよりも大きい場合は、いちばん大きいサイズの用紙を選択します。

原稿サイズが、候補となったどの用紙サイズよりも小さい場合は、いちばん近いサイズの用紙を選択します。

●●● スケールモードの設定が、【ザヒョウエリア】の場合

有効座標エリアを含むいちばん小さい用紙サイズを選択します。

有効座標エリアが、候補となったどの用紙サイズよりも大きい場合は、いちばん大きいサイズの用紙を選択します。

有効座標エリアが、候補となったどの用紙サイズよりも小さい場合は、いちばん近いサイズの用紙を選択します。

補足

- 操作パネルの原稿サイズが【ジドウ】以外に設定されている場合、用紙サイズは操作パネルの用紙サイズで設定されている用紙サイズとなります。
- 操作パネルの給紙トレイが【*トレイ(自動)】に設定されている場合、用紙サイズは各トレイにセットされている用紙サイズとなります。ただし、サポートされていないサイズの用紙がセットされていると、サポートしているサイズの用紙のセットを促すエラーメッセージが表示されます。

3.3.6 倍率の決定方法

オートスケール実行時、スケーリングの倍率は原稿サイズおよび用紙サイズで決定しますが、スケールモードの設定によって異なります。

補足

スケーリングを有効にするためには、操作パネルのスケールの設定を【スル】にします。【シナイ】の場合は、等倍(100%)で描画されます。

●●● 原稿サイズが【ジドウ】、スケールモードが【ヨウシサイズ】の場合

操作パネルのハードクリップの設定は、無効になります。ハードクリップエリアは常に用紙ハードクリップエリアとなります。

- 原稿サイズ=用紙サイズの場合は、等倍(100%)で描画します。
- 原稿サイズ > 用紙サイズの場合は、縮小して描画します。
- 原稿サイズ < 用紙サイズの場合は、等倍(100%)で描画します。

原稿 \ 用紙	A3	A4	A5	B4	B5
A0	35	25	100	31	100
A1	50	35	25	43	31
A2	71	50	35	61	43
A3	100	71	50	87	61
A4	100	100	71	100	87
A5	100	141	100	173	100

描画位置は、原点位置がレイアウトの場合、原稿を用紙の中央に配置して描画します。原点位置が左下または中央の場合、原稿、用紙それぞれの原点を合わせて描画します。

●●● 原稿サイズが【ジドウ】、スケールモードが【ザヒョウエリア】の場合

操作パネルのハードクリップの設定は、無効になります。ハードクリップエリアは常に拡張ハードクリップエリアとなります。

倍率は、有効座標エリアと用紙サイズによって決定します。各用紙サイズの有効座標範囲は次のとおりです。

単位:プロッターユニット

用紙サイズ	0度				90度			
	最小値		最大値		最小値		最大値	
	P2x - P1x	P2y - P1y	P2x - P1x	P2y - P1y	P2x - P1x	P2y - P1y	P2x - P1x	P2y - P1y
A3	7829	5485	73075	51200	5485	7829	51200	73075
A4	5485	3828	51200	35733	3828	5485	35733	51200
A5	3828	2648	35733	24720	2648	3828	44088	35733
B4	6762	4723	63120	44088	4723	6762	44088	63120
B5	4723	3297	44088	30773	3297	4723	30773	44088

倍率の最大値は、各用紙サイズの拡張ハードクリップエリアの210.0%、倍率の最小値は、22.5%となります。

3.3.7 オートレイアウト描画時の制限事項

●●● プリンターにハードディスクが装着されている場合

オートレイアウト実行時、プリントデータはハードディスクに格納されます。

●●● プリンターにハードディスクが装着されていない場合

オートレイアウト実行時、プリントデータはオートレイアウトメモリーに格納されます。

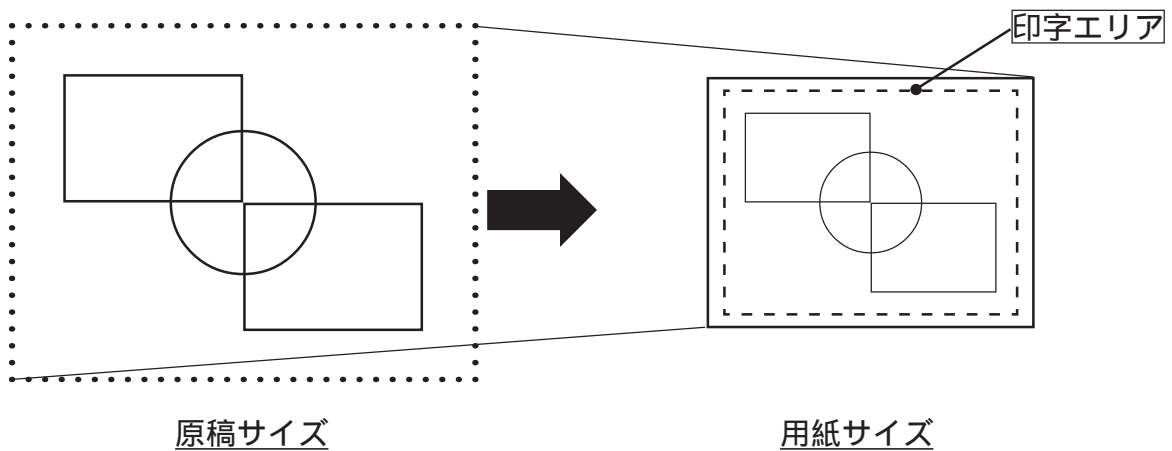
オートレイアウトメモリーの初期値は100kbyteです。したがって、100kbyteを超えるサイズのプリントデータを受信した場合、プリンターはエラーとなります。この場合は、プリンターの操作パネルを使ってオートレイアウトメモリーの容量を変更してください。ただし、オートレイアウトメモリーの上限は、5120kbyteです。したがって、5120kbyteより大きいサイズのプリントデータを受信することはできません。

オートレイアウト機能を使用する場合は、プリンターにハードディスクを装着することをお勧めします。

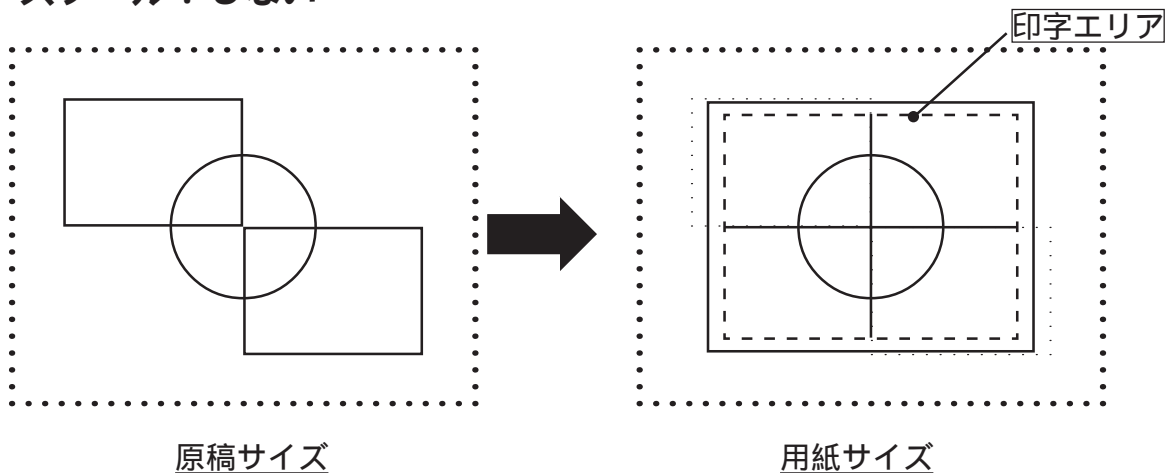
3.3.8 各機能組み合わせ例

以下に各機能の組み合わせによって、どのような印刷結果となるか例を記載します。

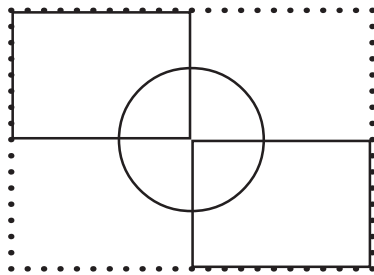
- 原稿：自動、座標原点：0°、スケールモード：用紙サイズ、スケール：する



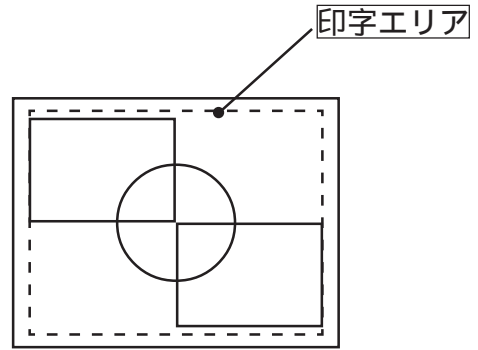
- 原稿：自動、座標原点：0°、スケールモード：用紙サイズ、スケール：しない



- 原稿：自動、座標原点：0°、スケールモード：座標エリア、スケール：する

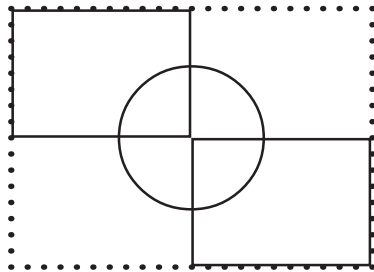


入力データより判断した有効座標エリア

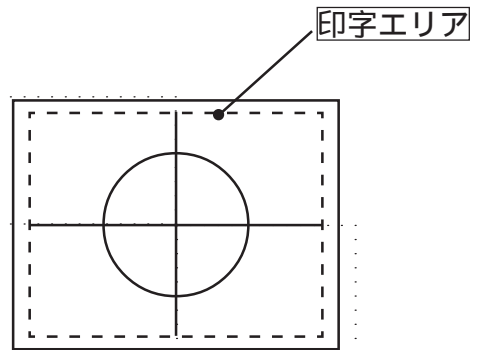


用紙サイズ

- 原稿：自動、座標原点：0°、スケールモード：座標エリア、スケール：しない



入力データより判断した有効座標エリア



用紙サイズ

索引

記号

- 1 インチミシン目スキップ 43
- 2 アップモード 40

A

- ART IV 12
- ART4 フォーム削除 19
- ART4 フォームメモリー 18
- ART4 ユーザー定義メモリー 18

C

- CR の機能 43

E

- ESC/P 24
- ESC/P モード設定リスト 47
- ESCP スイッチ 42

H

- HP-GL 60
- HP-GL/2 60
- HP-RTL 60

N

- N アップ 31

R

- ROM の取り付け 6

ア

- アウトラインフォント 14, 26, 64

イ

- 位置補正 41, 76
- イメージエンハンス 42, 78
- 印字可能桁数 54
- 印字桁範囲 42
- 印字制御 41, 76
- 印字モード 36, 72

工

- 英数字書体 40, 76
- エリア判定モード 78

オ

- オートレイアウト 75

カ

- 拡張子指定 43
- 拡張子文字 43
- 漢字コード表 41
- 漢字書体 40, 76

キ

- 給紙位置 43
- 給紙トレイ 36, 72
- 強制排出 28, 66

ク

- グレー 79

ケ

- 罫線 41
- 原稿サイズ 37, 73

サ

- 座標原点 73
- 左右方向 76

シ

- 縮小文字 42
- 上下方向 76

ス

- スケール 77
- スケールモード 77

セ

先端 79

タ

立ち上げメモリー 37, 73

ト

同梱品 4

トレイ 5 確認表示 40, 75

ニ

任意倍率 39

ハ

バーコード 31

ハードクリップ 77

排出コマンド 77

排出先トレイ 40, 75

倍率 39

倍率値一覧表 50

倍率符号 38, 74

倍率モード 39

白紙排出 41

幅 78

パレット優先指定 75

フ

フォームオーバーレイ 31

フォーム合成 44

フォームの削除 19

フォント 40, 76

部数の入力 75

部数の優先指定 75

プリント部数 39, 75

ヘ

ページ長 43

ペーパーマージン 78

ペン属性 78

メ

メモリー削除 37, 73

メモリー登録 37, 73

メモリーメニュー 37, 73

メモリー呼び出し 37, 73

モ

モードメニュー 35, 71

文字コード表 43

文字品位 42

ヨ

用紙位置 39

用紙サイズ 38, 74

リ

両面 40, 76

レ

連結 79

製品についてのお問い合わせは

IBM製品については、弊社営業担当員または弊社サービス技術員にお問い合わせください。

IBM 5591 カラー・レーザー・プリンター ART / エミュレーションキット取扱説明書

著作者 富士ゼロックス株式会社 / 日本アイ・ビー・エム株式会社
発行者 富士ゼロックス株式会社
ドキュメント プロダクト カンパニー
ヒューマンインターフェイス アンド デザイン開発部

発行年月 2001年 10月 第1版

P/N 55P1213

Printed in Japan



日本アイ・ビー・エム株式会社
〒106-8711
東京都港区六本木3-2-12

2001年 10月

P/N 55P1213